

特別講演 1

「地域包括ケア時代の漢方治療」

大東文化大学スポーツ・健康科学部 看護学科准教授

あおぞら診療所 副院長

北田 志郎 先生

演者は主に在宅医療の現場で、漢方薬を好んで処方してきました。在宅環境は一般に先端医療機器の導入が困難で、診療情報が制限されているにも関わらず判断を迫られ、それでいて治療手段は限られています。必然的に在宅医療における臨床家のありようは、キュアよりケアに、患者の暮らしや語りと自らの五感や生活観との響き合いにシフトすることになるように思われます。

こうした環境において、伝統医学の手法と発想は、相対的に価値が高いものとなると考えます。近年演者は、認知症終末期で老衰過程が進んだ高齢者に対し、ともすれば延命的処置と受け取られやすい医療手段の代替案として漢方治療を提案することが多くなっています。人生の締めくくりの時期を迎えた方々に対し、医療者は何を為し、何を為さないことが望ましいのか、ご参加のみなさまと一緒に考えることができれば幸いです。